

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり		
所在地	宮崎県小林市大字堤4380 (電話) 0984-23-8360		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価確定日	平成21年9月25日

【情報提供票より】 (平成21年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	15 人	常勤9人, 非常勤6人, 常勤換算4.36人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成21年7月24日現在)

利用者人数	27名	男性 4名	女性 23名
要介護1	3	要介護2	9
要介護3	6	要介護4	5
要介護5	3	要支援2	1
年齢	平均 88歳	最低 75歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池井病院、ひろた内科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

季節の移り変わりとともに変化する高千穂の峰の姿と、近くの畑で作業をする地域住民の作業風景を見ることで、四季を十分に感じることができる環境が、利用者にはほどよい刺激となっている。法人の敷地内には併設の特別養護老人ホームやデイサービス、生活支援ハウス、そして温泉施設もあり、人々が行き来するにぎやかな様子はホームの利用者にとっては、普段のなにげない景色の中のひとコマでもある。また、ホームは杉の木をふんだんに使った落ち着いた和風の造りになっており、利用者は自由な空間で思いどおりに過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員で検討して改善シートを作成し、計画的に改善できるための取り組みをおこなっている。特に開設当初に作成した理念は、職員全員で話し合っって作成した地域性のあるものになっており、その理念に則した利用者支援に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、ユニットごとに職員全員で話し合いながら作成し、職員全員が自己評価の内容一つ一つを確認して、外部評価につなげる意識を持って取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政や家族会、地域住民の代表者によって組織され、2か月に1回の会議では、ホームの運営から利用者の全体的な状況等までに至り、前回の外部評価の報告もなされている。委員からの意見については、月1回の職員会議で報告され、意見に対する積極的な取り組みも検討されている。定例の災害訓練では、運営推進会議に合わせて実施されており、その様子を委員も見ることができると、効果的な取り組みもできている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪も多く、そのつど利用者の状況について報告がなされている。来訪の少ない遠方の家族については、手紙や電話等で報告ができています。現金預かりの出納簿の確認も定期的にされている。また、家族からの意見や苦情に対しては受付簿を作成し、職員会議等で報告しながら、今後の対応を協議し、迅速に家族の意見に応えられるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域密着型の理念に則した利用者支援やホームの運営について、試行錯誤しながら積極的に取り組んでいる。地域の住民からの招待で、花畑を散策するなど、確実に地域との協調や協働ができつつある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念は、地域との連携や交流をうたっており、地域密着型の理念がつくりあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念の中にあるケアの取り組みや、地域との協調を目指し、理念の内容を確認することも忘れずに利用者支援にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人グループ全体の行事への参加やデイサービス利用者との交流、地域住民からの声かけによるつながりはできているが、地域に存在する社会資源の活用や積極的な地域へのアプローチができていない。	○	地域の子供たちや住民との積極的なふれあいをさらに進めていき、理念に則した地域交流を実践されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年作成した改善シートを職員全員で話し合い、改善に向けての取り組みを行っている。また、自己評価についてもユニットごとに職員全員で話し合いながら、外部評価の意義も含めた取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの会議には、行政や地域住民等の代表者が参加し、ホームの運営や利用者支援、外部評価の報告もなされている。また、委員からの意見等については、月1回の職員会議で報告がなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の担当者と話をする機会を設け、制度やホームの運営について積極的に聞く姿勢がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪の際に、利用者個別の状況報告をしたり、遠方の家族には電話や手紙などでの報告をしている。また、家族会が組織され、定期的に行われる家族会の中で報告をするようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ヒヤリハットや苦情処理については、その報告書や記録がある。家族からの意見や苦情等は、職員会議等で今後の対応や対策について迅速に協議している。また、家族とはできる限り日ごろのコミュニケーションを取るよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、それぞれの職員は日ごろから3つのユニットを行き来し、顔を覚えてもらうようにしている。また、異動の際には、早い時期から少しずつ利用者に対して異動することを伝えるなどしている。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修会のほか、月1回のホーム会議においても、利用者支援のための勉強会をしている。また、外部の研修会にも、職員は交代で行くことができるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西部地区のグループホーム連絡協議会の交流は定期的に参加しており、随時他の事業所とも連絡を取り合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面接の際に説明を十分に行い、本人や家族にはホームの見学をしてもらうようにしている。また、在宅の担当ケアマネジャーからも詳しく話をしてもらうように働きかけている。入居直後は、併設のデイサービス利用者の友人に遊びに来てもらうなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と同じ時間を過ごす中で、利用者から昔の慣習や習い事などを教えてもらう機会を得ている。また、利用者個別の話をゆっくり聞く時間も取るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や散歩、買い物などの希望があれば、すぐに対応するようにしている。即応できないことについては、日を決めて後日対応したり、家族の協力を得て対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員が決められており、常に担当者は計画作成担当者とコミュニケーションを図りながら、日々状態の変化に即したプランができるようにしている。また、毎月の職員会議でも、利用者個別の支援について検討するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価は3か月ごとに行っているが、計画そのものの見直しは初回計画からなされず、本人家族への説明も初回計画の際だけになっている。	○	介護計画の進捗状況についての評価は毎月するようにし、定期的な計画の見直しは3か月ごとに行い、本人や家族への説明や同意も必要とされるので、基本に立ち返った介護計画の作成ができるようにしていただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外来受診については家族にお願いしているが、できない場合にはホームの職員で対応するようにしている。また、緊急避難的な宿泊や家族の宿泊ができる体制がとられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連絡調整は、各ユニットの責任者が取るようにしている。また、ホームの看護師も必要に応じて主治医等との連携により、利用者の健康管理ができるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの方針はないが、本人家族の意向を尊重し、状況に応じた対応ができるようにしている。また、介護度の高い利用者もあり、重度化してもホームでの生活を継続できる体制と、職員相互の意識もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者への声かけは、声のトーンに配慮しながら対応している。また、個人の台帳や日誌等については、事務室で保管され、利用者や来訪者の目につかないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はのんびりとそれぞれの時間を過ごし、職員も日課にこだわることなく、本人の意向に沿った支援ができています。居室で過ごす人、ホールで貼り絵をする人、それぞれの時間を自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者の能力に応じ、野菜の皮むきやテーブルふき、配膳や下膳などを職員と一緒にしている。また、食事介助を必要とする利用者の対応もあり、職員全員は一緒に食事を取れないが、可能な職員は利用者と一緒に同じ食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、週3回の入浴であるが、希望に応じて回数や時間の調整も可能である。また、隣接のデイサービスの温泉入浴も、希望により実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は洗濯物やおしぼりたたみなど、能力に応じた役割を日課として取り組むように支援している。また、楽しみごとのひとつとして、手芸や音楽など個人の趣味活動の支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内の敷地にあるゲートボール場や近くの地区体育館までの散歩コースを、日常的な外出のコースにしている。また、季節ごとに市内の観光地にも足を運ぶなど、戸外に出るための支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はユニットそれぞれの玄関はすべてオープンにしてあり、勝手口やその他の窓も施錠はしていない。職員も利用者に心配りができる意識がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホームとの合同災害訓練も実施しているが、ホーム単独の訓練も2回行っており、地域防災協力会組織の協力も得ている。また、運営推進会議に合わせて災害訓練をすることで、委員のメンバーである地域代表者や行政の代表者も訓練を見ることが出来る。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事は、えん下困難により介助が必要な方には食事形態を工夫して提供している。献立は併設の特別養護老人ホームの栄養士に指導を仰ぎ、食事や水分の摂取状況の把握もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニットすべて風通しや採光もよく、和風のよさを取り入れた空間造りができている。特に廊下の角の畳敷きは、利用者がいつでもくつろいだり、洗濯物をたたんだりすることができる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者個別の特徴があり、仏壇やタンス、電子オルガンなどを持ち込むなど、それぞれ工夫され、居心地のよい居室作りができている。		

※  は、重点項目。